編集後記

◆ 暑中お見舞い申し上げます.

産総研正門付近のヒマラヤ杉の林の中では，ニイニイゼミの鳴き声が降りしきっています．聞く者の耳を突き刺すようなカン高い声は，体長2cm前後の小柄な身体から出るとは信じられない程の迫力に満ちています.

「閑さや岩にしみいる蝉の声」松尾芭蕉が奥の細道の旅で聞いた蝉の声の主も，このニイニイゼミであったろうとされています．これに異を唱えたのは山形県出身の歌人，斎藤茂吉でした．芭蕉の名句が詠まれた山寺（立石寺）が同じ山形県だったこともあってか，茂吉は句の解釈に熱意を示し，この蝉をアブラゼミであると主張しました．そればかりか，自身でも何度か山寺を訪れ，実地検証さえも試みる念の入れようだったと言います．歌壇の巨人であった茂吉の異説は，昆虫学者までをも巻き込んでの論戦に発展し，一時はその道での格好の話題となりました．頑固者としても知られた茂吉は，終生自説を曲げなかったようですが，子息で作家の北　杜夫は「口にこそ出さなかったが，親父も内心ではシマッタと思っていたふしがある（どくとるマンボウ昆虫記）」と述懐していますので，この論争はニイニイゼミに軍配を挙げてよさそうです.

やがてニイニイゼミの声がアブラゼミやミンミンゼミに取って代わられる頃，巷では本格的な夏の訪れを迎えることになります.

◆ 本号の口絵には，この秋開催される北陸地質情報展の案内を載せました．この種の記事をグラビアで紹介するのは異例のことですが，節目の5回目であることと，産総研地質調査総合センターとしての初参加の意味を込めての掲載としました.

地質学会と時期を同じくして，開催地周辺の地球科学に関する情報を展示・公開し、一般の人達にも広く地学に親しんでもらうことを目指して企画された「地域地質情報展」は，1997年の九州（福岡）を皮切りに信州（松本），中部（名古屋），山陰（松江）と回を重ね，今回の北陸（金沢）を迎える運びとなりました．地質調査所の当時から本企画を積極的に推進してきた当センターでは，年々積み重ねてきた豊富な経験を活かして，今回も趣向を凝らした展示・実演を提供できる予定です．ご期待下さい。

◆ また，本号には外部からの隅田　実さん，地質調査所OBの神谷雅晴，河内洋佑さんからの「谷と沢の分布」，「萩焼とその粘土」，「中国の地学文献」を載せることができました．いずれも大変に興味深い原稿をお寄せいただき，誠にありがとうございました.

隅田さんの沢と谷の話は，野外調査に経験豊かな筆者ならではの着想でしょう．それを文化史的に考証しようとする試みに興味を惹かれました.

河内さんからの中国における地形図・地質図などに関する情報は，今後各種協力の拡大が予想される中国での文献類の入手について，大いに参考になるところです.

その他，ペルーの斑岩銅鉱床，北イタリア産大型魚竜化石，石の俗称シリーズなどが本号の内容です。それぞれに読み応えがあり，夏休みの座右の友としてお楽しみいただければと思っております.　（遠藤祐二）

地質ニュース編集委員会

委員長：遠藤祐二
副委員長：谷田部信郎
委　　員：磯部一洋・七山　太・中島　隆・安川香澄・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター　地質標本館
〒305-8567 茨城県つくば市東1−1−1
Tel. 0298−61−3754
Fax. 0298−61−3569

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース　第563号　2001年　7月号
定価￥785（本体価格￥748）〒実費

2001年7月1日　発行
編集　産業技術総合研究所
発行人　株式会社　実業公報社
代表者　林　光生
発行所　株式会社　実業公報社
東京都千代田区九段北1の7の8　〒102-0073
Tel. (03)3265−0951（代表）
Fax. (03)3265−0952
振替口座　00110−6−32466
麹町局私書箱第21号
印刷　株式会社　エアフォルク

© 2001 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターおよびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります．また，最寄りの書店でも注文できます.